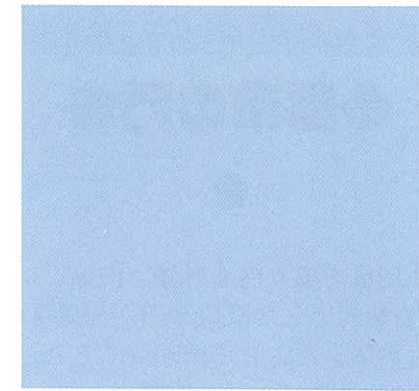
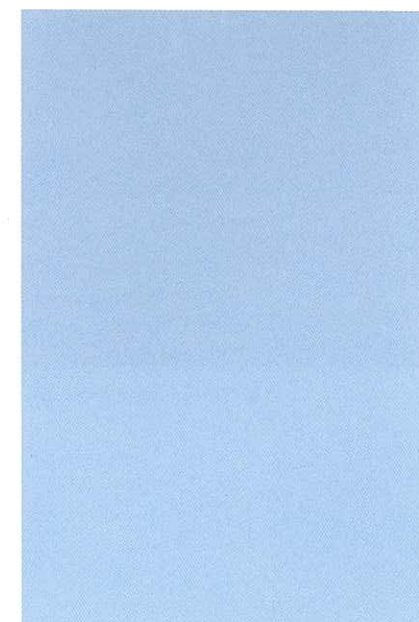




5. 首都の風格

首都として風格ある
都心の美しさを創出する



●都市の門●

千代田区を取り巻く外濠、内濠には、
地域の明確な境界として見附や門が配置されている。
地域の個性の強さに応じて門がつくられることで、
地域の個性もより明確になる。



首都東京-千代田のゲートとして象徴的な『東京駅周辺』（昭和40年頃）

対 処

見附や門の周辺では、それらの境界としての意味を損なわないようにする。
個性的なまとまりを持つ地域の境界部では、領域の個性が門によって明確に
表現されるようにする。

手法例

■見附や御門、橋梁など歴史的なゲートに近接する建物は、それらを際立たせる配置、形態、
意匠などに十分配慮する。



『田安門』



『常盤橋』

■商店街や同業関連種が集まっている地域の境界部では、門口を明確に表現する。



『すずらん通り』



『神田女学園』

関連キーワード

敷地の履歴

●16

緑の環

●32

モザイク状の町

●54

目標となる建造物

●104

門・玄関

●110

■明瞭な領域の境界部に位置するまちか
どの建物は、角地としての門を表現す
る。

●通りの性格●

まちは、性格の異なる通りが段階的に組みあわさって構成されている。通りの性格に応じてまちなみが作られればまちは奥行きのある秩序感を生み出すことができる。



『一番町F Sビル』の公開空地

対 処

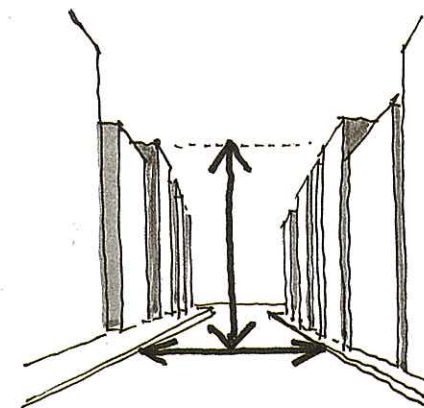
通りの個性、性格を見きわめ、通りの性格にふさわしい敷地利用と建築計画に努めること。

手法例

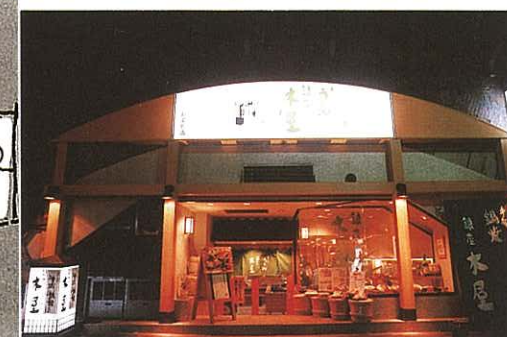
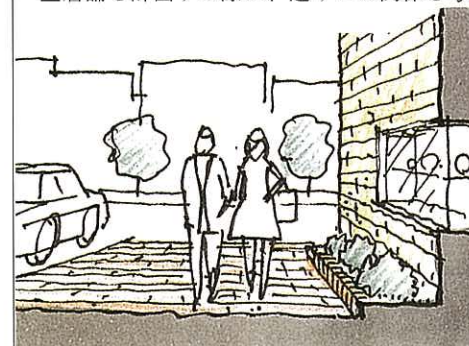
■歩行路に面する建物低層部では、歩く人に親しみやすいヒューマンスケールの壁面とする。



■既存の沿道建物のスケールや性格に馴染むファサードをデザインする。



■店舗を計画する際は、通りとの関係を考慮し、立ち寄りやすい店先を構成する。



■生活道路に面する建物では、生活する場や働く場を道沿いにとり、生活する人の創意と工夫で生活感が演出されることをうながす。



関連キーワード

ブロムナード
●56
向こう三軒両隣り
●76
歩行路の
ネットワーク
●78

●中心となる広場●

地域には中心となる広場が必要である。
適切に計画された広場は
周辺の建物のみならず地域を活性化させる。



『日比谷シャンテ』

対 処

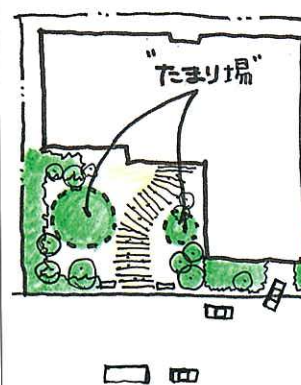
地域で不足している機能を把握し、人々が自然に集まれる広場とすること。

手法例

■地域の不足機能、要請に応じた広場のあり方や住民が設計に参加できる仕組みなどを組み込み、防災機能や待ち合わせ場所など公的な広場としての性格も組み込む。また、監視カメラや警備は極力目立たせず、控えめにする。

■広場内の通行動線や建物玄関に対するアプローチ動線に分断されない、たまりの場をつくる。

■陽の当たる場所、眺めの映える場所に複数の主要動線と接続し、人々が屋外でくつろげる場所を計画する。



『皇居外苑』



『日比谷シャンテ合歓の木広場』



『日比谷公園』

関連キーワード

- 広場から広場
- 38
- 交流の場所
- 80
- 人の気配
- 82
- 陽のあたる場所
- 84

●目標となる建造物●

建造物はすぐれた立地性や歴史性を兼ね備えている場合、
広く人々に共有化された地域のランドマークとなる。



建設当時の聖橋からニコライ堂をのぞむ

対 処

多くの人々に親しまれ共有化されたランドマークを極力保全する。
またその周辺は共有化された風景が際立つよう努める。

手法例

■価値ある歴史的ランドマークはできるだけ修復、保存に努める。



行幸通り正面の『東京駅』は歴史的ランドマークの代表格



■広く共有化されたランドマークの周辺、背景にあたる建物は、
ランドマークを引き立てるように工夫する。

『山の上ホテル』



『国会議事堂』

関連キーワード

眺めの映える場所

●12

語りかける細部

●22

人を育む場所

●26

先端性の蓄積

●28

『都』の魅力

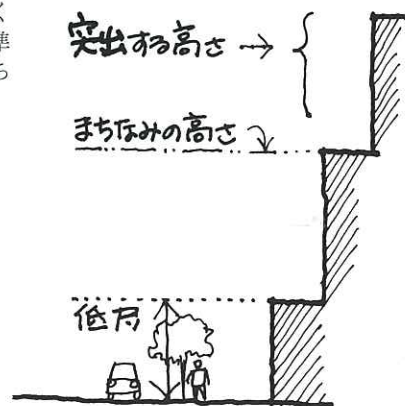
●116

●高さの分節●

建物の高さがそろった街並みは、個々の建物が
全体としてのつながりを感じさせてくれる。
まちなみは道行く人々に安定感や安心感をもたらすべきである。



■そのまちが歴史的につく
りあげてきた高さの規準
から低層部の高さともち
なみの高さを読みとる。



対 処

既存のまちなみの高さのつながりを尊重する。これを超える高さの建物を建てようとする場合、低層部のつながりとスカイラインの高さのつながりに注意して壁面を分節するなどの工夫をする。

手法例

■同じ通りに面する大半の建物の高さより高い建物は、地上から頭頂部まで均一で単調な壁面とせず、まちなみのつながりに対応して壁面を分節するなどの工夫をする。特に低層部は既存のまちなみとの関係を重視する。

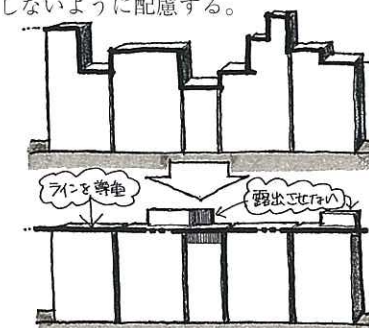
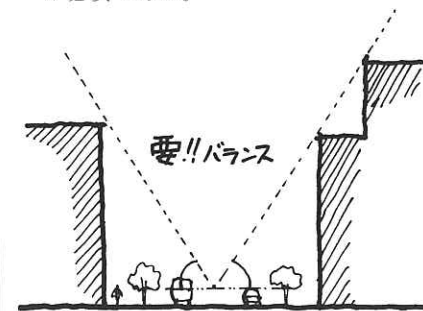


■通りを隔てて向き合うまちなみは、そのバランスを崩さないような配慮が必要である。

■隣接して歴史的建築物がある場合や特徴あるまちなみがある場合はそれらのスケールとの連続性をもたせる。また、頭頂部は周辺のスカイラインを尊重し、設備類が露出しないように配慮する。

関連キーワード

- 壁の表情 ●18
- 間口の分節 ●62
- 向こう三軒両隣り ●76
- 通りの性格 ●100
- 目標となる建造物 ●104



● 建物の縁（ふち） ●

建物の外観がつくる街区単位での表情が
まちなみの個性をつくる。
建物の縁（ふち）は、公共空間に面する
つなぎ目となる重要な場所である。



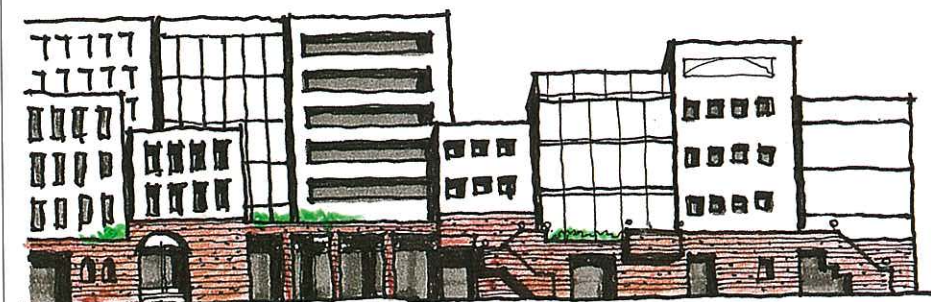
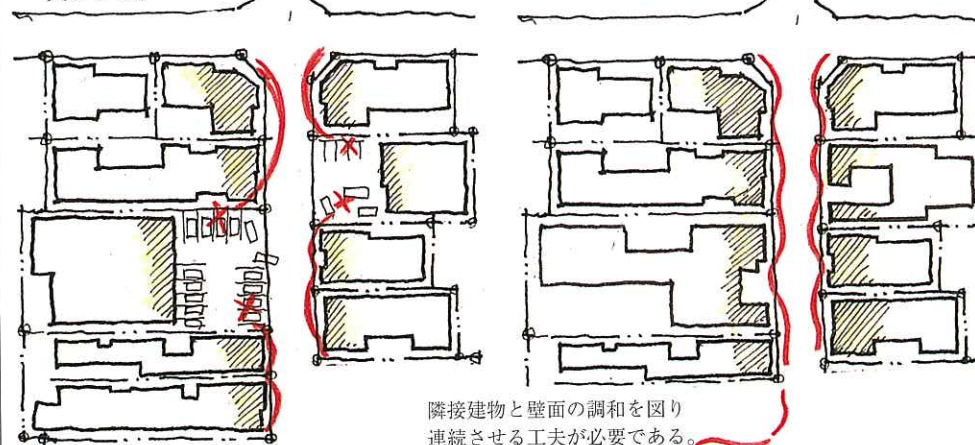
『明治生命館』

対 処

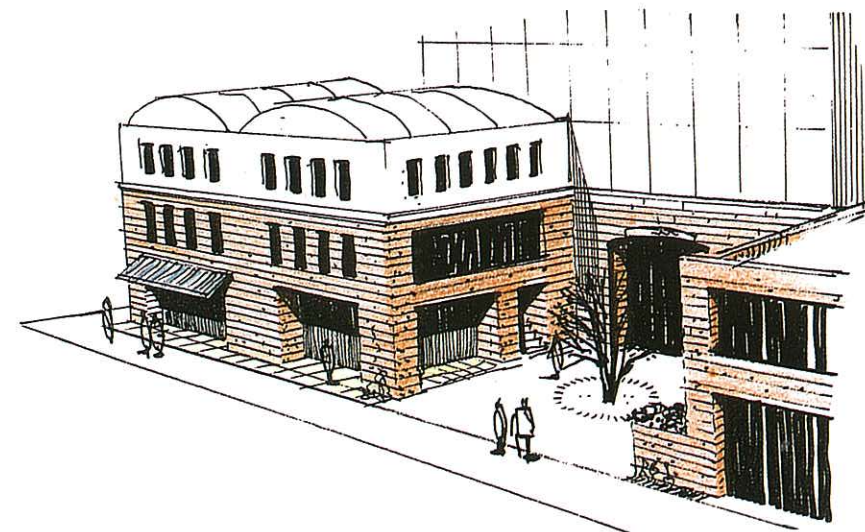
既存のまちなみの壁面のつながりを大切にして、通りに沿ってつなげていく。
特に街区型のまちなみでは街路の縁に沿って建物正面を連ねるようになる。

手法例

■街区型のまちで建物をセットバックする場合は、既存のまちなみとのつながりをつける工夫をする。



■歩行路の縁（ふち）に沿って壁面を連ね、中庭をとる建物構成も検討する。



関連キーワード

- 壁の表情 ●18
- ふさわしい材料 ●24
- 向こう三軒両隣り ●76
- 人の気配 ●82

●門・玄関●

建物の入口は人を迎え入れる大切な場所である。
門や玄関を街並みの中で適切な位置に良い形で置くことは
利用者にとってわかりやすいだけでなく、
まちなみ形成にとっても重要である。



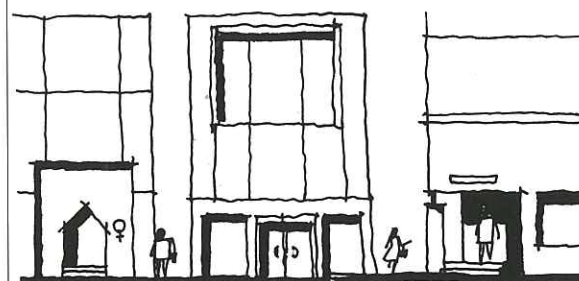
神田駿河台『文化学院』

対 処

玄関や門は、接近する道路から見えやすい位置に見分けやすい型でつくる。
複数の玄関がある場合はそれぞれの役割に応じて見分けやすい入口をもうける。

手法例

- その地域にふさわしい門・玄関と道との関係を守ること。
- 表通りに面して、見分けやすい位置に明確なアプローチに接続した正面玄関をもうける。



『九段小学校』

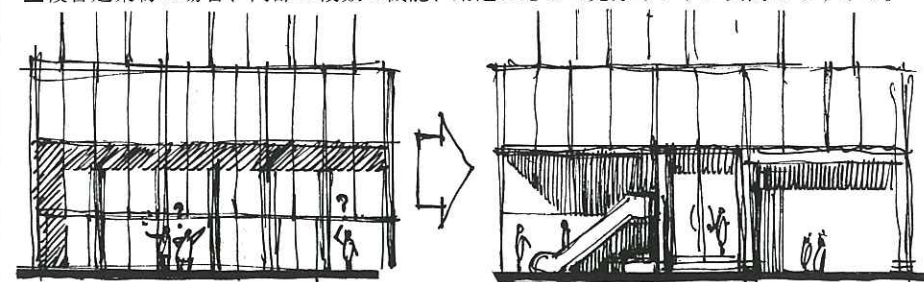


『丸ビルのエントランス』

関連キーワード

- 壁の表情 ●18
- 見切りのデザイン ●20
- 語りかける細部 ●22
- 向こう三軒両隣り ●76
- 通りの性格 ●100

- 複合建築物の場合、内部の複数の機能、用途に応じて見分けやすい玄関をもうける。



●柱の雰囲気●

都市には建物まわりの柱、道路・橋を支える柱、街路灯など数多くの柱がある。これらが単独に又は連続することで街路の景観をつくる重要な要素となっている。柱は単に機能的、構造的な問題を解決するだけでなく、その場所の魅力を表現できる力をもっている。



『DNタワー21』

対処

柱のある場所の特性を踏まえ、これにふさわしい表現をすること。

手法例

- ファサード、正面玄関などの中心となる柱は、格にふさわしい柱をデザインする。
- 柱と大地、他の部材との接合部を丹念に作り込む。



『万世橋』の欄干柱

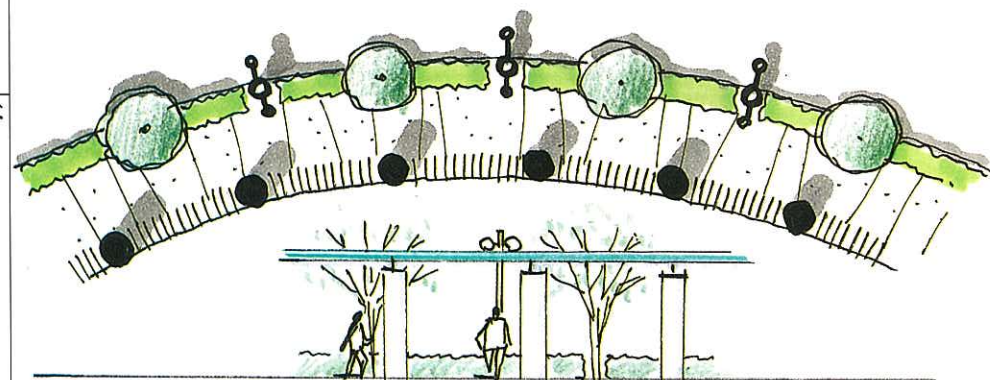


『帝国ホテル横』

- 街路灯は街路樹の間隔とを考慮して配置する。
- 通りで柱が林立する場合は、目立たせるものとそうでないものの関係を明確にしてい

関連キーワード

- 見切りのデザイン ●20
- ふさわしい材料 ●24
- 目立たない設備 ●66
- 通りの性格 ●100



歩行路に沿った列柱は、歩く人のリズムに配慮する

●ふさわしい色彩●

様々な色の氾濫がまちの風景の混乱を一層強めている。
建物の色は、緑や人の生活風景を引き立てるものでありたい。

まちの中で目立つべき主役となるものは何か、
背景となるものは何か、冷静に判断する必要がある。



『日生劇場』

対処

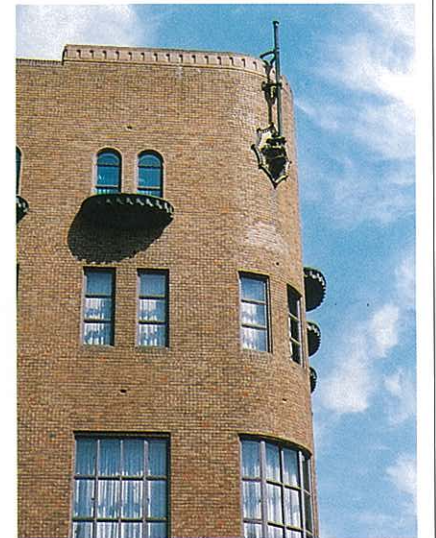
建物の色彩は、街並みの中で慎重に決める。原色や明度・彩度の高い色は、局部的、限定的に用いる。

手法例

- 素材本来の色を尊重する。
- まちなみに基調となる色がある場合は、これを尊重する。



『東京駅』



『学士会館』

関連キーワード

語りかける細部

●22

ふさわしい材料

●24

建物を活かす広告

●70

通りの性格

●100

目標となる建造物

●104



お馴染みのCIカラーを変更し、周辺との色彩調和に配慮した例

●「都」の魅力●

都市は市場である。
 そこでしか手に入らない商品や情報の流通を通して、
 そこでしか味わえない興奮と刺激を生み出す。
 多様な資質をもった複数の中心地が併存していることが、
 人を引きつけ続ける都市の魅力であり、
 この蓄積が都心に風格を備えさせていく。

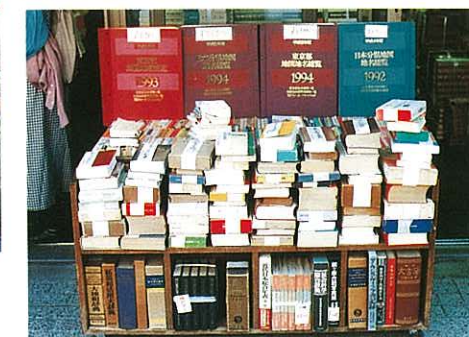


対 処

人・物・情報の集積と交流が生み出す多様性と選択性が人々を魅了する。
 フェイス・トゥ・フェイスの情報が集まり、人を引きつける先端性のある
 多様な 中心をつくり、それらが繁栄共生するようながしていく。

手法例

■個性的な界隈を支える土地利用や業種構成などを活かし、より魅力的な地域となるように
 あらゆる努力を重ねていく。



関連キーワード

- 心のより所 ●10
- 人を育む場所 ●26
- 先端性の蓄積 ●28
- モザイク状の町 ●54
- プロムナード ●56

引用参考文献リスト

本マニュアルの「キーワード」、「意味」及び「対処」の記述については、以下の表に示すように、C. アレグザンダー「パタンランゲージ」及び真鶴町「美の基準」を引用または参考にさせていただきました。

	キーワード	『パタンランゲージ』	真鶴町『美の基準』
歴史を刻む場所	『心』のより所	24.聖地	聖なるところ
	眺めの映える場所		眺める場所、眺め
	年輪を重ねた樹	171.木のある場所	木々の印象
	敷地の履歴		
	壁の表情		壁の感触
	見切りのデザイン		部材の接点・終わりの所
	語りかける細部		装飾
	ふさわしい材料	207.ふさわしい材料	自然な材料・生きている材料
	人を育む場所	26.ライフサイクル	
	先端性の蓄積		
育まれた自然	緑の環(わ)		
	水にふれる場所	25.水への接近	
	敷地の特性	104.敷地の修復	敷地の修復
	広場から広場		
	つながる緑		覆う緑
	見え隠れの庭	111.見えがくれの庭	少し見える庭
	屋上の庭	118.屋上庭	大きなバルコニー
	あいだの緑		ふだんの緑
	身近な花	245.さわれる花	さわれる花
	子供の笑い声	57.都市の子供	
多様な界限	モザイク状の町	8.モザイク状のサブカルチャー	
	プロムナード	31.プロムナード	
	あいだにある住宅	48.あいだの家	
	世帯の混合	35.世帯の混合、27.男と女	世帯の混合
	間口の分節		
	活きた路地	101.通り抜け通路	
	目立たない設備		
	見えない駐車場	97.見えない駐車場	ほどよい駐車場
	建物を活かす広告		
	表と奥の表情	57.静かな奥	段階的な外部の大きさ

	キーワード	『パタンランゲージ』	真鶴町『美の基準』
豊かなコミュニティと繁栄	向こう三軒両隣り	37.住宅クラスター	
	歩行路のネットワーク		
	交流の場所	30.活動の節点	
	人の気配		人の気配
	陽のあたる場所	161.日のあたる場所	日の恵み
	小さな人だまり	124.小さな人だまり	小さな人だまり
	座れる場所		
	お年寄り	40.どこにも老人	お年寄り
	夜のにぎわい	33.ナイトライフ	
	祭りの場	58.カーニバル	祭り
首都の風格	都市の門	53.大きな門口	大きな門口
	通りの性格		
	中心となる広場		
	目標となる建造物		歩く目標
	高さの分節		見つけの高さ
	建物の縁(ふち)	160.建物の外縁	建物の縁
	門・玄関	102.見分けやすい入り口の集まり	門.玄関
	柱の雰囲気	226.柱のある場所	柱の雰囲気
	ふさわしい色彩		ふさわしい色
	『都』の魅力	10.都市の魔力	

本マニュアルで掲載した写真の内、「＊」は「千代田区観光写真コンクール（千代田区観光協会）」
「＊＊」は（有）都市映像研究室によるものです。

1998年版への後書



都心環境デザインを専門の人々の言葉にまかすのではなく、趣味の問題にするのでもなく、一般の人々に分かる言葉（キーワード）で整理し、共通の指針として利用できるものを作れないだろうか？

本書を検討するに当たり、庁内で景観方針推進幹事会や専門部会での検討だけでなく、「千代田区景観形成デザインマニュアル検討委員会（座長・宮脇檀氏、学識経験者、区民の方々の参加による）」に意見をいただきながらとりまとめました。作業は公共空間でのチェックリストづくりから始まり、公開空地の実態調査をへて、協議項目の洗いだし、そして実際の事業にあてはめてみてキーワードの整理を行い、平成8年3月に案として取りまとめました。その後、景観形成マスタープランの一部としてマニュアルを取り込むべく精査作業を行ってきました。

この間、景観まちづくりの事前協議に使えるマニュアルはどうあるべきか、また、事前協議のシステムはどうあるべきか、多くの方々の助言・支援をいただきました。この場をかりて御礼を申し上げます。特に池上修一氏にはキーワードの構成方法や事前協議での使用方法など多くのご教授を賜りました。記して御礼申し上げます。

また、別表に示すようにクリストファー・アレグザンダー著「パターン・ランゲージ」「環境設計の手引き」（平田幹那訳、鹿島出版会）、そして神奈川県真鶴町「美の基準」につきましては、マニュアルの構成を考える上で参考にさせていただきただけでなく、多くのキーワードで引用させていただきました。これは、キーワードの全てを千代田区オリジナルにする方向もありましたが、対話を重視するマニュアルの主旨から考えて、まちづくりにおいて普遍性のある先人の知恵や努力を活かすことの方が、より発展性があると考え、引用させてもらいました。

このマニュアルが都心のまちづくりで使われ、精査され発展し、新たな後書が追加されることを願わずにはられません。今後とも、このマニュアルが使いやすく、分かりやすい内容になるよう、皆様のご意見をお寄せください。

千代田区景観形成マニュアル

平成10年3月

編集・発行 東京都千代田区

〒102-0074

東京都千代田区九段南1-6-11

電話 03-3264-0151（代表）

